

## ひろしの夏休み

松浦 俊博

孫のひろしは札幌の小学校一年生。七月二十五日から八月二十三日までが夏休みだ。北海道では冬休みは雪のせいで長く、その代わり夏休みは短い。七月二十四日から父親に連れられて北イタリアの南チロールにある彼の実家に行った。母親は仕事のために遅れて八月七日に合流し、十六日にひろしを連れて札幌に戻りすぐに仕事を再開。父親は八月末まで実家に残ったため、私たちが札幌でひろしの世話をすることになった。

南チロールの家は、ヴェローナから北に100kmくらい離れた標高800mの山村にある。更に北へ電車で二時間半くらい行くとボルツァーノからブレンナ峠を超えてオーストリアのインスブルックに到着する。風光明媚な名勝「ドロミテ」も近く、ヴェネチアにも電車で二時間ほど。山小屋風の家である。ベランダは花で飾られており、正面にボンドーネの美しい山が見える。ここに祖父と美容師見習いの従姉が住んでいる。

四年ぶりに訪れたひろしは、祖父や従姉のほかには伯母や近所の知り合いにも歓迎されて退屈する間もなく過ごした。料理が上手でいつも一緒に遊んでくれた祖母は二年前に亡くなったので、少し寂しい思いをしたようだが。古城やブドウ畑・湖・遊園地などに遠足すると、店でピッツアを何度か食べ切ったとのこと。このあたりのピッツアは直径40cm近くあり、私も十年あまり前に挑戦したが、全部は食べられなかった。従姉はいつもひろしの面倒をみて、散髪もしてくれた。ひろしの良い思い出になったようだ。

帰国して羽田で乗り継ぐひろしと母親を出迎えて、札幌の家に同行した。近所の人たちが、庭の野菜や宿題の朝顔の水やり、さらに強風で倒れたトマトに添え木をしてくれたので植物はみな元気だった。札幌の西区は、明治時代に屯田兵が入植した地域で助け合いの習慣が残っており、ありがたいことだ。

八月末まで宿題などの面倒を見ることになった。新学期から何とかクラスの子みんなについていてほしい。

